

## 僕達がオススメするキーナの森の楽しみ方

松田 悠信・南雲 海良 (キーナの森 子ども虫隊)

### はじめに

僕たちはキーナの森で、いろんな生き物や植物と出会いながら、キーナの森で行われている市民参加による里山保全活動「もりかつ」に参加し、子ども虫隊としてたくさんの動植物を観察・記録してきました。その中で、季節ごとの変化や、外来種、そして温暖化が生き物に与える影響についても考えてみました。

### 調査方法

もりかつの日に、実際に歩きながら見つけた生き物を集めてまとめました(図2、図3)。それから、2020年の6月から今までの観察記録を整理して、一番よく見つかった外来種についても調べました。さらに、定点カメラで見つかった外来種もチェックしました。

#### 【調査地概要】

「キーナの森」は、隣接する「あいな里山公園(国営明石海峡公園神戸地区)」とともに神戸市における「生物多様性保全のシンボル拠点」として整備された公園です。放置された里山に手を入れることで、希少種の保護を含めた豊かな生物多様性の保全・育成を行うとともに、環境学習や市民活動の拠点としての活用を目指しています。

所在地：神戸市北区山田町藍那、西区押部谷町木見・木津

面積：64.5ヘクタール(東遊園地約24個分)

〈神戸市ホームページ

<https://www.city.kobe.lg.jp/a10019/kurashi/machizukuri/park/intoro/kinanomori/index.html>



図1 キーナの森のロゴマーク  
(セトウチサンショウウオ)



図2 セトウチサンショウウオや  
その他の生き物を探す様子



図3 クワガタの幼虫を探す様子

### 結果と考察

見つけてうれしかった生き物はヒラタクワガタ(全長約6cm)です(図4)。また、何回も朽木を割ったので、もう割る前からクワガタの幼虫がいる朽木かどうかわかるようになってきてうれしかったです。ほかに、水場ではセトウチサンショウウオなども見つけました(図5)。これまでの観察記録で一番たくさん見つかった外来種はソウシチョウで、2020年6月から2026年1月までの期間

で12回確認されました。それから、セトウチサンショウウオの天敵、アライグマも定点カメラで見つかりました(図6)。発表では、こういった外来種が森の生き物たちにどんな影響を与えているのか、まとめてみました。

また、2020年から毎年5月-6月に観察されていたアカシジミが、2024年から見られなくなっていました。いくつか原因を予想してみました。まず一つ目は、ぼくたちの調査の仕方が変わってしまった可能性です。見に行く時間や場所が変わってしまい、見つけれなかったのかもしれませんが。二つ目は、地球温暖化などの気候の変化です。気温が上がったことで、アカシジミが育つタイミングが変わったり、えさとなる木の様子が変わったりして、環境が合わなくなったのではないかと考えました。これからも引き続き観察を続けていきたいです。

発表当日にたくさんの人から声をかけてもらって、もっとわかりやすい発表をするためにも、観察と記録が大切なことに気づきました(図7)。これからも記録を続けて、僕たちが好きな生きものたちがもっと住みやすい環境を守っていきたいです。



図4 ヒラタクワガタ  
(2025年6月)



図5 セトウチサンショウウオ  
(2021年12月)



図6 水場でエサを探すアライグマ  
(2025年7月)



図7 発表の感想や、アドバイス、質問を受けている様子